

論文要旨

I. 本研究の目的

本研究は CCNS が家族看護に困難を抱いた看護師から受けた家族看護のコンサルテーションにおける教育的関わり方を明らかにすることである。

II. 研究方法

研究対象者は ICU、CCU、救命救急センターICU に勤務しており、家族看護に困難を抱いた看護師のコンサルテーションを行ったことのある CCNS である。研究期間は 2018 年 11 月 15 日～2019 年 1 月 31 日であった。家族看護に困難を抱いた看護師に対しての関わりについて半構造的面接を行い、逐語録を作成しカテゴリ分類をしたのち、質的記述的に分析した。

III. 結果

研究参加者は 4 名で、CCNS 経験年数は平均 6.0 年であった。CCNS へのインタビューの結果から、家族看護に困難を抱いた看護師のコンサルテーションの関わり方を方法と意識に分け、分析した。方法については 5 カテゴリ【ケアの方向性を導く】、【看護師の支持者となる】、【コンサルテーションのきっかけをつくる】、【日常の実践でモデルを示す】【看護師間での学びの場をつくる】が明らかになった。また、意識については 5 カテゴリ【自分の実践をイメージする】、【看護師の未来像を描く】、【看護師がもつ個性を尊重する】、【看護師の近い位置に存在する】、【患者・家族ケアの浸透】が明らかになった。

IV. 結論

CCNS は困難を抱える看護師のコンサルテーションにおいて、個々の成長のための思考をめぐらせている事が明らかになった。また、コンサルテーションにつながる看護師との関係性の構築や、看護師への支援、環境づくりを日常から行っていたことが明らかになった。そしてそれらの関わりは CCNS の直接実践に根差したもので、看護師の教育を行う上で、自身の実践を磨き得られた知見や成果を見せていくことが必要であると考えられた。